# 平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月4日


上場会社名　フィールズ株式会社　　上場取引所　大
コード番号　2767　URL　http://www.fields.biz/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 大屋　高志
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション室長　(氏名) 畑中　英昭　TEL 03-5784-2111

四半期報告書提出予定日　平成23年8月9日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 17,635 | △17.4 | △225 | ― | △266 | ― | △284 | ― |
| 23年3月期第1四半期 | 21,344 | 33.1 | 2,348 | △72.4 | 2,518 | △70.4 | 1,477 | △68.6 |

(注)包括利益　24年3月期第1四半期　△309百万円　(―%)　23年3月期第1四半期　1,122百万円　(―%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年3月期第1四半期 | △856.82 | ― |
| 23年3月期第1四半期 | 4,448.58 | ― |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 69,675 | 45,877 | 65.5 |
| 23年3月期 | 78,971 | 47,021 | 59.2 |

(参考) 自己資本　24年3月期第1四半期　45,640百万円　23年3月期　46,779百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期 | ― | 2,500.00 | ― | 2,500.00 | 5,000.00 |
| 24年3月期 | ― | | | | |
| 24年3月期(予想) | | 2,500.00 | ― | 2,500.00 | 5,000.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― | ― |
| 通期 | 100,000 | △3.5 | 14,000 | 6.6 | 14,000 | 2.3 | 8,000 | 6.4 | 24,088.04 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

注)第2四半期連結累計期間の業績予想につきましては、開示を控えています。予想が確定次第、開示する予定です。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 24年3月期1Q | 347,000 株 | 23年3月期 | 347,000 株 |
| ② 期末自己株式数 | 24年3月期1Q | 14,885 株 | 23年3月期 | 14,885 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 24年3月期1Q | 332,115 株 | 23年3月期1Q | 332,115 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.5「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
・当社は、平成23年8月4日に(木)に機関投資家・アナリスト向けに説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 ……2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 ……4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 ……5
２．サマリー情報(その他)に関する事項 ……6
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 ……6
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ……6
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 ……6
３．四半期連結財務諸表 ……7
（１）四半期連結貸借対照表 ……7
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……9
四半期連結損益計算書 ……9
四半期連結包括利益計算書 ……10
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 ……11
（４）継続企業の前提に関する注記 ……13
（５）セグメント情報 ……13
（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 ……14

## １．当四半期決算に関する定性的情報

### （１）連結経営成績に関する定性的情報

#### ① 当第１四半期連結累計期間（４月－６月）の概況

売上高は17,635百万円（前年同期比17.4％減）、営業損失225百万円（前年同期は営業利益2,348百万円）、経常損失266百万円（同経常利益2,518百万円）となりました。四半期純損失については、特別損失として87百万円を計上した結果、284百万円（同四半期純利益1,477百万円）となりました。

その主因は以下の通りです。

当期の遊技機販売は、平成23年３月に発生した東日本大震災の影響による電子部品の不足などを勘案し、下半期にパチンコ・パチスロ（ＰＳ）遊技機とも複数の大型タイトルをシフトするなど、下半期重視型の販売スケジュールを計画しています。この計画のもと、当第１四半期は、パチスロ遊技機「SAMURAI 7」１機種のみの販売にとどめましたが、前年度第４四半期に販売を開始した「モバスロ ヱヴァンゲリヲン～真実の翼～」の売上の一部が当第１四半期に計上され、当初計画通りの実績となりました。

グループ事業関連は、グループ各社とも概ね当初計画通りの進捗となりました。

#### ② 当第１四半期連結累計期間のセグメント分析

［ ＰＳ・フィールド ］

当第１四半期の市場環境は、東日本大震災が及ぼす影響が懸念されましたが、パチスロ遊技機は昨夏の底打ちから回復基調が鮮明となり、前年同期を上回る販売実績をあげています。当第１四半期末（６月末）現在のパチスロ遊技機の全国設置台数は、141万台*と前年同期比で6.3％増になりました。

パチンコ遊技機は、中古機需要の高い低玉貸し営業が広がる一方で、投資効果の高い新台入替のニーズも高まっており、従来にも増して特定機種に人気が集中する傾向が強まっています。そこに大震災の影響が重なり、全体の販売台数は伸び悩む結果となっています。当第１四半期末現在、パチンコ遊技機の全国設置台数は、311万台*と前年同期比0.2％減になりました。

また、出店軒数は、ここ数年250店舗前後で推移していますが、年度替わりの４月は新規出店が増加しており、通年出店軒数の15％前後を占めています。当第１四半期もほぼ例年の水準を示しており、旺盛な出店意欲が継続しています。

当社は、変化する市場ニーズはもとより、広くエンタテインメントの観点からＰＳビジネスをとらえ、余暇市場におけるＰＳ市場の競争力向上に軸足を置いた取り組みに力を注いできました。当期においても、エンタテインメント性に優れた商品の企画・開発・販売に注力し、市場の活性化に向けた取り組みを推進しています。

当第１四半期のパチスロ遊技機販売は、「SAMURAI 7」１機種を販売し、前年度第４四半期に販売を開始した「モバスロ ヱヴァンゲリヲン～真実の翼～」の当期計上がありました。一方、パチンコ遊技機販売では、新機種の販売はありませんでしたが、第２四半期（７月－９月）に納品する大物アーティストをキャラクターに採用した「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」の営業活動を積極的に展開しました。

以上の結果、当第１四半期のパチンコ遊技機販売台数は7,107台（前年同期57,785台減）、パチスロ遊技機販売台数は36,250台（同4,396台減）となりました。この結果、ＰＳ・フィールドの売上高は15,979百万円（前年同期比16.8％減）、営業損失は140百万円（前年同期は営業利益2,343百万円）となりました。

*全国設置台数は当社調べによるものです。

＜当第１四半期の販売タイトル一覧＞

| パチンコ遊技機販売タイトル | 発売月 | |
|---|---|---|
| （新機種発売無し） | － | |
| パチンコ遊技機 総計上台数合計 | 7,107　台 | |

| パチスロ遊技機販売タイトル | 発売月 | |
|---|---|---|
| ［前期継続販売］モバスロ エヴァンゲリヲン～真実の翼～ | 平成23年　３月 | ㈱ビスティ製） |
| SAMURAI 7 | 平成23年　５月 | ㈱ビスティ製） |
| パチスロ遊技機 総計上台数合計 | 36,250　台 | |

（注）計上台数には、上記タイトル以外の代行販売による販売台数を含んでいます。

［ モバイル・フィールド ］

国内のインターネット利用環境は、通信速度の高速化や通信アクセス網の整備を背景に、モバイル及びPCともに発展を続けています。とくにモバイルでは、スマートフォンやタブレット型端末の普及が本格化し、ゲーム、電子書籍といったエンタテインメント系コンテンツに需要の高まりがみられます。

こうした市場環境のなか、当社は有料会員数の拡大を目指し、強みであるＰＳ関連コンテンツを活用したモバイルを含むオンラインサービスの拡充に加え、その他領域でも保有コンテンツを活かした新サービスの拡充に努めています。

㈱フューチャースコープ及びアイピー・ブロス㈱は、モバイルを含むオンラインサービス分野において、「フィールズモバイル」「Pspace（Pスペース）」「モバスロ」に加え、平成23年４月に開始した新サービス「ななぱち」など、ＰＳ関連コンテンツを活用したサービスへ投資を行い、事業の拡充に努めました。また両社は、ＰＳ以外の領域においても研究・開発及び投資を進めており、当社グループが保有するコンテンツを活用した新たなサービスの提供に向けて積極的に事業を展開しています。

以上の結果、当第１四半期のモバイル・フィールドの売上高は618百万円（前年同期比24.9%増）、営業利益は26百万円（同73.3%減）となりました。

［ スポーツエンタテインメント・フィールド ］

当第１四半期において、ジャパン・スポーツ・マーケティング㈱では、前期に引き続きスポーツ関連事業の経営改善に努めました。フィットネスクラブ事業は、「トータル・ワークアウト」ブランドで付加価値の高いサービスを提供し、プログラムの開発を継続するとともにサービスの質の高さを訴求して会員獲得に努めました。アスリート・マネジメント事業は、引き続き事業の見直しを継続しました。

以上の結果、当第１四半期のスポーツエンタテインメント・フィールドの売上高は524百万円（前年同期比4.4%減）、営業損失は34百万円（前年同期は営業損失64百万円）となりました。

［ その他・フィールド ］

当第１四半期において、㈱円谷プロダクションでは、中核であるウルトラマンシリーズIP（知的財産）のさらなる活性化を図るべく、様々な施策に取り組みました。なお、同社に関する日本国内の訴訟として、海外におけるウルトラマンキャラクターの利用に対して損害賠償を求められておりましたが、平成23年７月27日に知的財産高等裁判所より言い渡された判決において、平成22年９月30日に東京地方裁判所より下された同社敗訴の一審判決が取り消され、逆転勝訴となりました。これにより同社は、ウルトラマンシリーズIPの活用領域及び範囲を拡大する可能性が高まったと考えております。また同社は、従前から保有するIPやブランド価値に依存するだけでなく、新しいIP開発などの将来計画の策定に着手しました。

㈱デジタル・フロンティアは、映画、ゲーム、パチンコ・パチスロ遊技機向けなどのコンピュータ・グラフィックスの制作を着実に進めました。平成23年４月に続編として公開された映画「GANTZ PERFECT ANSWER」のVFX（ビジュアル・エフェクツ：映像視覚効果）制作や、ゲーム「龍が如くOF THE END」のモーションキャプチャー関連の制作協力を行うなど、同社が持つハイレベルな技術を活かした映像制作事業を拡大しました。

㈱小学館クリエイティブとの共同出資で設立した出版会社㈱ヒーローズは、月刊コミック誌の今秋創刊に向けて引き続き準備を進め、優良IPの開発・創造に必要な基盤強化に注力しました。

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント㈱は、国内外のパートナー企業との連携を深め、世界初となる超解像度及び立体視対応の月刊ビジュアルマガジン「PLUP SERIES」（平成23年８月創刊予定）の雑誌・デジタル版企画を進めました。さらに、同社が企画・プロデュースを行う劇場アニメーション「ベルセルク 黄金時代篇Ⅰ 覇王の卵」（平成24年１月公開予定）の作品公開に向けた準備を進めました。

以上の結果、当第１四半期のその他・フィールドの売上高は920百万円（前年同期比21.6%減）、営業損失は78百万円（前年同期は営業損失55百万円）となりました。

（注） 各セグメントの売上高には、内部売上高または振替高を含んでいます。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

流動資産は、40,946百万円と前連結会計年度末比10,105百万円の減少となりました。これは主に売上債権の減少によるものです。

有形固定資産は、10,099百万円と前連結会計年度末比10百万円の増加となりました。

無形固定資産は、5,029百万円と前連結会計年度末比40百万円の減少となりました。

投資その他の資産は、13,600百万円と前連結会計年度末比839百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券等の取得によるものです。

以上の結果、資産の部は69,675百万円と前連結会計年度末比9,296百万円の減少となりました。

（負債）

流動負債は、19,667百万円と前連結会計年度末比7,920百万円の減少となりました。これは主に仕入債務の減少及び未払法人税等の減少によるものです。

固定負債は、4,131百万円と前連結会計年度末比231百万円の減少となりました。これは主に社債の償還によるものです。

以上の結果、負債の部は23,798百万円と前連結会計年度末比8,151百万円の減少となりました。

（純資産）

純資産の部は、45,877百万円と前連結会計年度末比1,144百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少によるものです。

（キャッシュ・フローの状況の分析）

当第１四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ6,159百万円増加し、21,791百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、8,173百万円（前年同期は1,698百万円の支出）となりました。これは主に売上債権の減少16,744百万円、仕入債務の減少4,257百万円、法人税等の支払4,156百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、931百万円（前年同期は2,478百万円の支出）となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出400百万円、無形固定資産の取得による支出213百万円、有形固定資産の取得による支出136百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,080百万円（前年同期は2,318百万円の支出）となりました。これは主に配当金の支払755百万円、社債の償還による支出300百万円等によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

| | 平成24年3月期<br>見通し | 平成23年3月期<br>実績 | 前年同期比 |
|---|---|---|---|
| 売上高 | 100,000百万円 | 103,593百万円 | 3.5%減 |
| 営業利益 | 14,000百万円 | 13,136百万円 | 6.6%増 |
| 経常利益 | 14,000百万円 | 13,684百万円 | 2.3%増 |
| 当期純利益 | 8,000百万円 | 7,520百万円 | 6.4%増 |

通期連結業績予想は、平成23年５月12日発表の「平成23年３月期 決算短信」の通り、公表した内容に変更はありません。

当期は、東日本大震災の影響による電子部品の不足などを勘案し、期初より下半期重視型の遊技機販売スケジュールを計画しています。

これに沿って、第２四半期連結累計期間は新機種投入が少ない計画となっていますが、第１四半期のパチスロ遊技機「SAMURAI 7」、第２四半期のパチンコ遊技機「CR ayumi hamasaki 浜崎あゆみ物語 -序章-」が良好な受注数で推移しており、加えて、ロデオ10周年シリーズ第４弾のパチスロ遊技機「旋風の用心棒～胡蝶の記憶～」などの新機種投入を予定していることから、堅調に推移する見込みです。

また、重点を置いている下半期では、パチンコ・パチスロ遊技機ともに複数の大型タイトルを予定しており、積極的な受注活動に努めていきます。

通期連結業績見通しについては、第１四半期業績が期初の想定通りに進んでいること、第２四半期以降の新機種投入スケジュールも予定通り進捗していることから、順調に推移するものと見込んでいます。

## ２．サマリー情報(その他)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## ３．四半期連結財務諸表
### （１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度<br>（平成23年３月31日） | 当第１四半期連結会計期間<br>（平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 15,873 | 22,032 |
| 受取手形及び売掛金 | 27,948 | 11,905 |
| 商品及び製品 | 300 | 242 |
| 仕掛品 | 826 | 1,528 |
| 原材料及び貯蔵品 | 231 | 228 |
| その他 | 6,071 | 5,125 |
| 貸倒引当金 | △200 | △117 |
| 流動資産合計 | 51,051 | 40,946 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 土地 | 6,324 | 6,324 |
| その他 | 3,765 | 3,775 |
| 有形固定資産合計 | 10,089 | 10,099 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 2,801 | 2,723 |
| その他 | 2,268 | 2,305 |
| 無形固定資産合計 | 5,070 | 5,029 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 8,466 | 8,738 |
| その他 | 4,769 | 5,350 |
| 貸倒引当金 | △475 | △488 |
| 投資その他の資産合計 | 12,760 | 13,600 |
| 固定資産合計 | 27,920 | 28,729 |
| 資産合計 | 78,971 | 69,675 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 17,939 | 13,063 |
| 1年内償還予定の社債 | 740 | 740 |
| 短期借入金 | 85 | 85 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 44 | 29 |
| 未払法人税等 | 4,217 | 22 |
| 賞与引当金 | 312 | 45 |
| 役員賞与引当金 | 220 | 60 |
| 事務所移転損失引当金 | － | 41 |
| その他 | 4,028 | 5,579 |
| 流動負債合計 | 27,587 | 19,667 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 900 | 600 |
| 長期借入金 | 65 | 61 |
| 退職給付引当金 | 339 | 357 |
| その他 | 3,058 | 3,111 |
| 固定負債合計 | 4,362 | 4,131 |
| 負債合計 | 31,949 | 23,798 |

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度<br>（平成23年３月31日） | 当第１四半期連結会計期間<br>（平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 7,948 | 7,948 |
| 資本剰余金 | 7,994 | 7,994 |
| 利益剰余金 | 33,443 | 32,328 |
| 自己株式 | △1,785 | △1,785 |
| 株主資本合計 | 47,601 | 46,486 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △822 | △845 |
| 為替換算調整勘定 | 0 | 0 |
| その他の包括利益累計額合計 | △821 | △845 |
| 少数株主持分 | 242 | 236 |
| 純資産合計 | 47,021 | 45,877 |
| 負債純資産合計 | 78,971 | 69,675 |

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自　平成22年４月１日<br>至　平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 売上高 | 21,344 | 17,635 |
| 売上原価 | 13,680 | 12,558 |
| 売上総利益 | 7,663 | 5,076 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,314 | 5,302 |
| 営業利益又は営業損失（△） | 2,348 | △225 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2 | 1 |
| 受取配当金 | 82 | 85 |
| 持分法による投資利益 | 98 | － |
| その他 | 89 | 61 |
| 営業外収益合計 | 272 | 147 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6 | 3 |
| 持分法による投資損失 | － | 42 |
| 投資有価証券運用損 | 57 | 12 |
| 出資金償却 | 10 | 38 |
| 災害支援費用 | － | 82 |
| その他 | 29 | 10 |
| 営業外費用合計 | 103 | 189 |
| 経常利益又は経常損失（△） | 2,518 | △266 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | － | 0 |
| 関係会社株式売却益 | 126 | － |
| 貸倒引当金戻入額 | 115 | － |
| その他 | 45 | － |
| 特別利益合計 | 288 | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | 9 |
| 減損損失 | － | 22 |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 142 | － |
| 事務所移転損失引当金繰入額 | － | 41 |
| その他 | 16 | 13 |
| 特別損失合計 | 159 | 87 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△） | 2,647 | △353 |
| 法人税等 | 1,159 | △68 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△） | 1,488 | △285 |
| 少数株主利益又は少数株主損失（△） | 10 | △0 |
| 四半期純利益又は四半期純損失（△） | 1,477 | △284 |

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自　平成22年４月１日<br>至　平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△） | 1,488 | △285 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △365 | △23 |
| 為替換算調整勘定 | 0 | － |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | － | － |
| その他の包括利益合計 | △365 | △23 |
| 四半期包括利益 | 1,122 | △309 |
| （内訳） | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 1,111 | △308 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 10 | △0 |

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自　平成22年４月１日<br>至　平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,647 | △353 |
| 減価償却費 | 528 | 428 |
| 減損損失 | － | 22 |
| のれん償却額 | 87 | 78 |
| 貸倒引当金の増減額（△は減少） | △123 | △68 |
| 賞与引当金の増減額（△は減少） | △236 | △267 |
| 役員賞与引当金の増減額（△は減少） | △75 | △160 |
| 退職給付引当金の増減額（△は減少） | 16 | 18 |
| 事務所移転損失引当金の増減額（△は減少） | － | 41 |
| 受取利息及び受取配当金 | △85 | △86 |
| 仕入割引 | △51 | △0 |
| 持分法による投資損益（△は益） | △98 | 42 |
| 支払利息 | 6 | 3 |
| 関係会社株式売却損益（△は益） | △126 | － |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 142 | － |
| 売上債権の増減額（△は増加） | 10,803 | 16,744 |
| たな卸資産の増減額（△は増加） | 78 | △639 |
| 商品化権前渡金の増減額（△は増加） | △25 | 409 |
| 仕入債務の増減額（△は減少） | △12,079 | △4,257 |
| 未払消費税等の増減額（△は減少） | △172 | △455 |
| 預り金の増減額（△は減少） | 635 | 849 |
| その他 | △174 | △134 |
| 小計 | 1,696 | 12,214 |
| 利息及び配当金の受取額 | 90 | 122 |
| 利息の支払額 | △12 | △6 |
| 法人税等の支払額 | △3,473 | △4,156 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △1,698 | 8,173 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △134 | △136 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1 | 2 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △186 | △213 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △366 | △400 |
| 出資金の払込による支出 | △51 | △3 |
| 貸付けによる支出 | △242 | △1 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出 | △1,649 | － |
| 関係会社株式の取得による支出 | △115 | － |
| 関係会社株式の売却による収入 | 200 | － |
| その他 | 66 | △179 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,478 | △931 |

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自　平成22年４月１日<br>至　平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自　平成23年４月１日<br>至　平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（△は減少） | △1,209 | － |
| 長期借入金の返済による支出 | △15 | △18 |
| 社債の償還による支出 | △300 | △300 |
| 配当金の支払額 | △738 | △755 |
| その他 | △55 | △5 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △2,318 | △1,080 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △3 | △1 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | △6,498 | 6,159 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 15,906 | 15,632 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 9,407 | 21,791 |

（４）継続企業の前提に関する注記

当第１四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年６月30日)

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間(自　平成22年４月１日　至　平成22年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

| | ＰＳ・フィールド | モバイル・フィールド | スポーツエンタテインメント・フィールド | その他・フィールド | 計 | 調整額（注１） | 四半期連結損益計算書計上額（注２） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 19,135 | 494 | 546 | 1,167 | 21,344 | ― | 21,344 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 66 | 0 | 1 | 5 | 74 | (74) | ― |
| 計 | 19,201 | 495 | 548 | 1,173 | 21,418 | (74) | 21,344 |
| セグメント利益又は損失(△) | 2,343 | 99 | △64 | △55 | 2,322 | 26 | 2,348 |

（注）１ セグメント利益の調整額26百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。
２ セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「その他・フィールド」において、連結子会社である株式会社円谷プロダクション及び株式会社デジタル・フロンティアの株式を取得しています。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第１四半期連結累計期間においては2,732百万円です。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年６月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

| | ＰＳ・フィールド | モバイル・フィールド | スポーツエンタテインメント・フィールド | その他・フィールド | 計 | 調整額（注１） | 四半期連結損益計算書計上額（注２） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客に対する売上高 | 15,916 | 501 | 521 | 695 | 17,635 | ― | 17,635 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | 62 | 117 | 2 | 224 | 406 | (406) | ― |
| 計 | 15,979 | 618 | 524 | 920 | 18,041 | (406) | 17,635 |
| セグメント利益又は損失(△) | △140 | 26 | △34 | △78 | △226 | 1 | △225 |

（注）１ セグメント利益の調整額1百万円は、セグメント間取引の消去によるものです。
２ セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（６）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。